

クリッカーを活用したアクティブラーニングと分析 ～Moodle と TurningPoint の連携～ 金長正彦先生講演レポート

2017年2月19日、自治医科大学で開催された日本 MoodleMoot プログラムにおきまして、拓殖大学・金長正彦先生の「クリッカーを活用したアクティブラーニングと分析～Moodle と TurningPoint の連携～」と題する講演が行われました。日曜日の朝9時からの講演にもかかわらず聴講者は一人また一人と増えていき、終了後、金長先生は熱心な質問者に取り囲まれました。

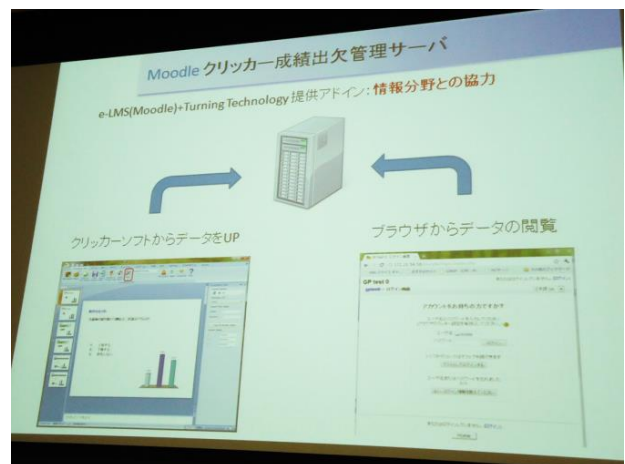


金長先生は電気通信大学の特任教授として、学生に講義内容を定着させるためにデータを取りながら様々な試行錯誤を繰り返して来られました。今回の講演はその中で行われた創意工夫のダイジェスト版ともいえるべき内容だったのですが、そこでフル活用されたのがクリッカーと Moodle の組み合わせだったのです。

クリッカーを活用する際、多くの場合「飛び道具」として、ちょっと会場の注目を惹きつけたり参加意識をかき立てたりする程度に

終始してしまいがちです。しかしクリッカーで行った投票は、「誰が」「何問題に」「何を選択したか」が全て自動的にデータとして記録されています。金長先生はここに目を付けました。学生の知識量や理解度をデータとしてストックし、後に改めて推移を分析することを可能にする、その可視化のための材料がせっかく手元にあるのです。これを活かさない手は無い。では手に入ったデータを、どうやって時間軸に沿って並べ、分析しやすくするか。そこで金長先生が選んだツールが Moodle だったのです。

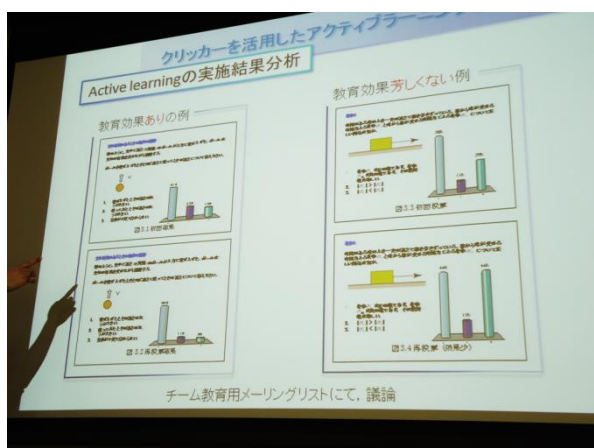
Moodle の活用を本格化させた当時、学内では理科分野における基礎知識が不足した学生の増加が問題となっていました。そこで、まずベースとなる基本的な教育内容を全学部共通化し、コアとなるカリキュラムを作ることになりました。そしてサーバー上に教材やシラバスを用意したのです。



講義資料を共通化したことで、出欠管理だけでなく、講義中に行った質問、小テストの

成績などに至るまで平準化が実現し、サーバー上でそのデータが教員間で共有できるようになりました。このデータを教員会議前にあらかじめ見ておいてもらうことで、議事の進行もスムーズになりました。

また、これはよく言われることですが、クリッカーを同時に活用することで、ピア・インストラクションやグループ学習での効果がやはり上がりました。

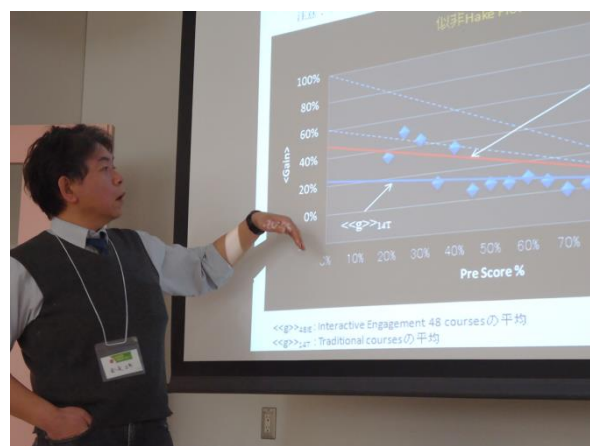


ただ、一方でeラーニングを学内に広め軌道に乗せるには、様々な困難がついて回りました。特に導入初期に問題になったのが、アクセス頻度の低下です。せっかく教材や資料をオンライン上に用意しても、ユーザーのアクセス頻度が日を追うごとに落ちていってしまっただけです。

しかし金長先生はこの問題もクリッカーを上手に利用することで巧みに解決されました。学生全員にクリッカーを配布し、eラーニング教材にクリッカー用投票クイズを組み込んで、データを連携させたのです。すると、アクセス頻度が回復しただけでなく、なんと学生の成績アップまで同時に実現しました。

学生の基礎知識不足、学習データの可視化、得られたデータの有効活用などなど。こうした問題に直面しては、その都度乗り越えていかれた金長先生のエピソードの数々は、どれ

もリアルで生々しく、大変示唆に富み説得力のあるものでした。



なお、金長先生が創意工夫で行っていらした時系列での学生の個別分析につきましては、その後製品アップグレードにより、現在の最新版 TurningPoint ではソフトウェア単体でも行えるようになっています。

名前	旅行 2017-02-...	test 2017-04-2...	セミナーアンケ...	test 2017-04-2...	トータルパフォーマンス	トータルポイント	パーセント
井上進行	1	0	0	15	16	16	69.57%
江藤謙	-	0	0	15	15	15	65.22%
大島信治	-	0	0	5	5	5	21.74%
天野健一	2	0	0	15	17	17	73.91%
内村大樹	3	0	0	10	13	13	56.52%

しかし、ツール自体はLMSとの連携をはじめ、各種機能もますます便利で使いやすく進化している一方、現場ではその便利さを活かし切れていないケースがまだまだあるようです。ただ、それはつまり、広大な可能性が目の前に広がっていることを意味します。

日々、更なる授業改善を探究されている全ての皆様が、金長先生のようにその願いを実現できますよう、KEEPAD JAPANは国内外での豊富なサポート実績に基づき、これからもより一層努めてまいります。